

鴨川の水質と水生生物の調査結果

資料1-2

鴨川の水質、水生生物の調査票（北大路橋左岸付近）

実施日	令和7年9月19日（金）	実施時間	午後1時00分
天候	○晴れ・曇り・雨（○印を）	水温	25度（推定値）
学校名	京都市立紫明小学校	鴨川を美しくする会	京都自然教室

水質調査（バックテスト）

調査場所	北大路橋から 鴨川 ○上流・下流	(○印)
調査項目	pH（ピーエイチ）： 水素イオン指数。7が中性で数字が小さくなるほど酸性になり数字が大きくなるとアルカリ性になります。水が酸性かアルカリ性かをみる指標です。	水質値 pH 8.0
	COD（化学的酸素要求量）かかてきさんそようきゅうりょう： 水中の有機物の量の目安で、数値が大きいくほど水が汚れている指標です。	水質値 0.05 ppm
	NO ₂ ：亜硝酸窒素（あしょうさんたいちっそ） 人のし尿及び生活排水中の窒素の量で、トイレからの排水量の目安になります。	水質値 0.0 mg/L
水の状態	透明度：○良い・やや良い・悪い	臭い：○しない・少し・する（○印）

水生生物類の調査

採 取 場 所		北大路橋から 鴨川 ○上流・下流				(○印)					
水 生 生 物 名		幼虫	成虫	多	少	水 生 生 物 名		幼虫	成虫	多	少
1	スジエビ類	-	-	○		11					
2	ヒゲナガカワトビケラ	○			○	12					
3	カワニナ類	-	-		○	13					
4	ハグロトンボ	○			○	14					
5	コオニヤンマ	○			○	15					
6	コヤマトンボ	○			○	16					
7	ナベバタムシ	○			○	17					
8	アメリカザリガニ				○	18					
9	シオカラトンボの仲間	○			○	19					
10						20					
		○印をして下さい						○印をして下さい			

【総評】バックテストによる水質調査結果は、3項目とも「きれいな水」であった

水生生物調査では水質判定Ⅱ（ややきれいな水）に分類される生物が多数見つかった。

少数ではあったが水質判定Ⅲ（きたない水）に分類される生物も見つかった。

調査結果は猛暑による鴨川の水量低下の影響も考えられた。

鴨川（北大路橋）で見つかった主な水生生物種

黄色マーカーは数多くみられたもの



スジエビ類



ヒゲナガカワトビケラ(幼虫)



カワニナ



ハグロトンボ (幼虫)



コオニヤンマ(幼虫)



コヤマトンボ(幼虫)



シオカラトンボの仲間 (幼虫)



ナベバタムシ



アメリカザリガニ

【鴨川の水質と水生生物調査の総評】

水 質 調 査

パック試薬による水質調査の結果は3項目(PH・COD・N02)とも「きれいな水」であった。

水生生物調査

水生生物調査では水質判定(ややきれいな水)に分類される生物が多数見つかった。

少数ではあったが水質判定(汚い水)に分類される生物も見つかった。

調査結果は猛暑による鴨川の水量低下の影響も考えられた。

【参考】 鴨川に棲む生き物の変遷

約90年前（1935年頃）

御園橋～出雲路橋の水中には13種の溪流に棲むカゲロウ幼虫が生息していた（今西, 1935）。

約65年前（1960年頃）

下水や工場排水が流入により、シマイシビル、ユスリカなどが生息する汚濁の進んだ川（きたない水）であった（津田ら, 1960）。

約50年前（1974年頃）

ユリカモメが飛来し、1987年には最大数9,967羽を示した。その後、減少して2017年に356羽となった（鴨川水系のユリカモメ数量調査, 2016）。

約40年前（1986年頃）

コガタシマトビケラが大量発生し、北大路橋付近では夏期に水底1m四方に約5,000匹生息していた（八木ら, 1992）。

約15年前（2009年頃）

葵橋での水生生物調査結果は、ヒゲナガカワトビケラ、カワニナ、コオニヤンマなどが生息する「ややきれいな水」であった（京都自然教室）。